

表3-3 取扱量の区分

区 分	取扱量の目安
大 量	トン、kl 単位で計る程度の量 例：砂、溶湯
中 量	kg、l 単位で計る程度の量 例：クローム添加剤
少 量	g、ml 単位で計る程度の量 例：アセチレン

表3-4 揮発性・飛散性の区分

区 分	揮発性・飛散性の目安と例
高揮発・ 高飛散	高揮発性液体（沸点 50℃未満）、高飛散性固体（微細で軽い粉じんの発生する物） 例：アセチレン、粉じん
中揮発・ 中飛散	中揮発性液体（沸点 50－150℃）、中飛散性固体（結晶質、粒状、すぐに沈降する物） 例：メタノール
低揮発・ 低飛散	低揮発性液体（沸点 150℃超過）、低飛散性固体（小球状、薄片状、小塊状） 例：アンチモン、クローム添加剤（クロム）、キシレン（防錆油）

- ② ①で確認した区分を表3-5に当てはめ、予測ばく露量を推定し、その予測ばく露量を「4 リスクの見積り」の「予測ばく露量 (EP)」欄に記入します。

表3-5 予測ばく露量の判定

揮発性・ 飛散性 取扱量	高揮発・高飛散	中揮発・中飛散	低揮発・低飛散
大量	EP4	EP4	EP3
中量	EP3	EP3	EP2
少量	EP2	EP1	EP1

(3) 望ましい管理手法の区分

(1) で区分された化学物質又は粉じんの有害性のレベルと、(2) で推定された予測ばく露量をそれぞれ表3-6に当てはめ、化学物質又は粉じんの望ましい管理手法のポイントを推定し、その区分（ポイント）を「4 リスクの見積り」の「望ましい管理手法」欄に記入します。

表3-6 望ましい管理手法の区分（ポイント）

予測ばく露量 有害性 のレベル	EP4	EP3	EP2	EP1
A, a	4	4	4	4
B	4	4	3	2
C, b	4	3	2	1
D, c	3	2	1	1
E, d	2	1	1	1